

5.15

■司会 小森 京子〈佐賀県〉 佐賀県立生涯学習センター事業部企画員  
宮内 健二〈高知県〉 高知県教育委員会生涯学習課長

## 1. 南阿蘇セミナーを中心とした広域事業の展開

14:15~14:40

－ 6ヶ町村の連携と相互交流の方法－

秋山 清二〈熊本県〉 高森町教育委員会社会教育課社会教育係長

南阿蘇6ヶ町村それぞれの生涯学習を推進し、かつ広域的な事業展開を図るための取り組みは15年目を迎える。各町村が特色ある講座を実施、住民は自由に受講できる。大学との提携や講座内容の重複を避ける工夫等、生涯学習推進連絡協議会が取り組んできた相互交流促進の方法、経過、成果と課題について発表する。

## 2. 福岡都市圏17大学連続公開講座の成果と今後の課題

14:40~15:05

田中 正廣〈福岡県〉 福岡市教育委員会生涯学習部生涯学習課長

第8回全国生涯学習フェスティバル参加事業として平成8年度に開講した。大学の学術研究成果を地域に還元すると共に、市民の高度化・多様化した学習ニーズに応えようとするものである。行政の枠を越えた範囲の大学と連携、各大学の持ち味を生かした幅広い内容と豊富な講師陣による講義を集中的に都心部で受講できるため、市民の好評を得て定着しつつある。具体的な方法、成果と課題等を報告する。

～ ティータイム ～

15:05~15:40

## 3. 出合いのたまり場「夢講座」

15:40~16:05

－子どもとの交流を中心とした仲間づくりと社会参加の方法－

中村由利江〈広島県〉 府中公民館定期活動グループ「夢講座」代表世話人

平成6年4月府中公民館主催講座として発足、3年目に自主活動グループとなり、6年目からは地域団体として活動。主婦と子ども達が公民館を中心に、自然の中での遊びや和紙等を使った遊びを通して交流している。活動の過程で、子ども達の成長が見られ、仲間の社会参加の意識が高まった。地域の中で果たせる役割を検討中である。

## 4. 球磨ゆめさき大学

16:05~16:30

－ボランティアによる文化の風おこしの取り組み－

恒松 秀行〈熊本県〉 球磨郡須恵村「球磨ゆめさき大学」運営委員

平成8年10月、県内で一番小さい村に文化ホールが完成。このホールの活用を考え、生涯学習の視点から自由大学を発足させた。行政の支援を一切受けない、自主的・自発的なボランティア組織で運営している。現在16歳~84歳までの650名の学生が一流講師の講演を楽しんでいる。設立・運営の方法、成果や課題を発表する。

## 5. 総括討論

16:30~17:00

■司会 川原田弘子〈佐賀県〉 親業訓練インストラクター  
 篠原 茂明〈高知県〉 宿毛市教育委員会生涯学習係長

# 5.15

## 1. 健康づくりと運動実践指導

14:15~14:40

ー保健福祉と教育のタイアップの試みー

村上 英之〈福岡県〉 新吉富村教育委員会社会教育課社会教育主事兼主任主事

発表者が厚生省の健康運動実践指導者の資格を取得したことを契機に、保健福祉課より村内21地区の健康づくり運動巡回指導の要望があり、生活習慣病の予防の一環として自分に適した運動・スポーツを探すことを目的に、平成4年より実施している。平成6年から体育指導委員も指導補助として参加、健康づくり運動にニュースポーツ等も取り入れて、保健福祉課と教育委員会のタイアップ事業として成果を上げている。

## 2. 中山間地域の自然を生かすふるさと活性化の道

14:40~15:05

大江 文雄〈鳥取県〉 関金町教育委員会社会教育課長・元長寿百歳仙人の里づくり塾長

平成4年、6集落による公民館連絡協議会で地域の生き残りとは活性化の方法を検討、若者グループ、婦人組織等の協力を得て、炭窯、溪流釣り、バーベキューハウス、そば体験工房など、ふるさとの特徴を生かした企画に取り組んだ。行政主導型でなく、住民自らが実践して仲間意識が向上し、地域に果たす自己の役割を見いだした。

～ ティータイム ～

15:05~15:40

## 3. 過疎地域のまちづくり

15:40~16:05

ー女性有志の「とどろき太鼓」ー

小野川章男〈高知県〉 大正町「四万十川 とどろき太鼓愛好会」代表

主婦、町職員、教職員、保母等の女性有志が、地域の民俗文化を掘り起こし、和太鼓を地域文化として育て根付かせたい、和太鼓を通して人を育てようと、平成7年11月から活動している。これまでに町内外のイベントに40回参加、町づくりの活力となっている。活動の経緯、成果や課題について発表する。

## 4. 情報発信の拠点・横岳ふるさと茶屋「夢のぼり」の施設運営と課題

16:05~16:30

秦 千恵美〈大分県〉 大田村社会教育委員・横岳ふるさと茶屋「夢のぼり」代表

中山間地域活性化事業および転作奨励事業促進のための食堂・体験工房・農産物直売所「夢のぼり」は、公募によって結成した自主グループで管理運営している。おもしろネーミングによる一品料理、低価格等により、開店以来8ヵ月余の間に7,200人が訪れた。人々の交流、生産意欲の向上が見られ、村内外の情報発信の基地として育ちつつある。その運営方法、具体的な成果と課題について述べる。

## 5. 総括討論

16:30~17:00

5.15

■司会 長松 俊博〈大分県〉 大分県教育委員会生涯学習課生涯学習推進係長  
山岡 澄雄〈広島県〉 広島県教育委員会生涯学習課社会教育主事

## 1. できることをできるところから

14:15~14:40

### —町ぐるみの国際支援活動—

川田 裕子〈広島県〉 大野町国際支援協会(OISA)副会長

平成4年PTA講演会で京都「ベトナムの子どもたちを支援する会」との出会いから、翌年町ぐるみで取り組んだ支援活動が、その後OISAとして継続し今日に至っている。ベトナム・ベンチエ省の障害児への支援活動を中心に、京都の会と連携を取りながらも、それぞれができることをできるところから関わり無理をしないことを前提に、大野町で取り入れ易い形で活動している。

## 2. 500円で学習を!

14:40~15:05

### —「ワンコイン教室」の経緯と課題—

田島 恭子〈佐賀県〉 財団法人「孔子の里」事業担当

市民の教養向上のために平成8年度に講師を公募した「雑学大学」でスタート、9年度は「土曜講座」として開設、10年度は「教室」として定着した。予算がないので受講者から500円を徴収して実施、講師は市内在住の中国人4人と地元の有志3人に依頼している。市中心部から離れている施設にもかかわらず、月350人の参加がある。

～ ティータイム ～

15:05~15:40

## 3. 生活の中の‘学び’を見直す

15:40~16:05

### —町民の“グリーンシャワー輝き学園”—

高木 昭〈山口県〉 菊川町教育委員会社会教育課生涯学習推進専門員

文部省の地域社会教育総合事業を受けて平成9年度より実施、教育委員会と各組織の代表者、学識者による運営委員会を中心に町民に呼びかけて、生涯学習を身近な生活のレベルでとらえ、考えようと取り組んでいる。生活の中の学習関連項目を分類・点数化する「学びの記録簿」を活用して、日常生活を‘学び’の視点で見つめ直している。

## 4. 公演開催による町おこし

16:05~16:30

### —「千々石こだわり倶楽部」挑戦と模索の10年—

町田 岩太〈長崎県〉 千々石町消防吏員

自然・よいもの・人にこだわる「千々石こだわり倶楽部」は、地域に根ざした各種イベントを行うことにより、人づくり・地域づくり・自分づくりを目指している有志のグループである。昭和63年以來、出演者をホームステイで受け入れてコンサートや寄席を開いたり、千々石海岸を舞台にした砂の造形コンクールを実施している。

## 5. 総括討論

16:30~17:00

■司会 嘉屋美智子〈広島県〉 広島県教育委員会生涯学習課専門員  
 富來 秋廣〈鹿児島県〉 鹿児島県教育委員会社会教育課指導主事

# 5.15

## 1. “リサイクル新提案”使用済み割り箸を紙に再生する運動の目指すもの 14:15～14:40

向井 哲朗〈鳥取県〉 王子製紙(株) 米子工場環境管理室上級技師

ゴミ減量と森林資源・環境の保全を図るため、7年前に社員食堂からリサイクル運動を始める。地元皆生温泉、自治会にも呼びかけ、全国規模の運動に広がった。各工場、行政、ロータリー・ライオンズクラブ、飲料店組合、自治会、学校、婦人会等、各種団体との協力を中心に、運動の理念と方法、成果と課題について発表する。

## 2. 「青少年の地域エコプログラム」の取り組みから 14:40～15:05

—環境を学ぶ 生きる力を育む—

川野 浩章〈広島県〉 広島県教育委員会生涯学習課社会教育主事

青少年が自分たちの生活する地域において、自主的・継続的に環境について学ぶ機会と環境保全活動を充実・活性化することを目的としている。エコプログラムに取り組むことで、青少年の豊かな心をはじめとした「生きる力」を育成するとともに、青少年のボランティア活動を推進し、青少年が主体性を持って参画できる地域社会の創造を目指した活動を展開している。

～ ティータイム ～

15:05～15:40

## 3. 自ら作り学び合う学級PTAの取り組み 15:40～16:05

—子どもの目線で考える—

梶井 厚子〈鹿児島県〉 国分市立国分西小学校PTA平成10年度副会長

平成10年より、これまでのPTA活動を反省し、大規模校における望ましい活動の在り方を研究、実践した。特に、役員・リーダーの資質を高めるための研修の充実、学年間の連携や内容の多様化を図るための記録簿等による情報交換、誰でも役員になれる雰囲気づくりに取り組んだ。その経緯や内容、成果と課題を発表する。

## 4. 中学生による地域へのアプローチ 16:05～16:30

—子ども会サミット成長の軌跡—

小宮 哲〈長崎県〉 野母崎町脇岬地区子供会育成会会長

平成4年、子ども会育成会を母体にサミット・リーダー会議として発足、組織的に活動を続けて7年目を迎える。7単位子ども会から中学2年生～小学6年生の代表が集まる。行事の企画運営を全て任せ大人は黙って見守るといった社会が形成され、中学生が喜々として参加している。ボランティア活動は、地域の人たちの評価も高い。

## 5. 総括討論 16:30～17:00

5.16

■司会 渡邊 秀雄〈熊本県〉 阿蘇教育事務所社会教育主事  
山本 福代〈山口県〉 厚狭教育事務所生涯学習ボランティア活動コーディネーター

## 1. 学校現場における「学社融合・総合的な学習の時間」への段階的取り組み(その2) 9:00~9:25

桑原 広治〈熊本県〉 水俣市立久木野小学校教頭

前任地の人吉市立大畑小学校では、平成9年度から生涯学習の視点で学校・家庭・地域社会の役割を現代的課題に即して分析し、学社融合研究をベースに段階的に取り組んできた。10年度は三者が発想の転換を図ったことで「学社融合・総合的な学習の時間」研究に歩みがみられた。その具体的手法と今後の課題・展望について発表する。

## 2. 学社融合の取り組み 9:25~9:50

—小・中学校と教育支援ネットワークの連携方法と成果—

黒木 朗次〈宮崎県〉 日向市教育委員会社会教育課係長

平成9~10年度、美々津小学校・美々津中学校が学社融合事業の研究指定を受けて研究を進めてきた。地域の区長会、PTA、高齢者クラブ等の団体が構成された教育ネットワークが支援組織となり、人材の発掘から事業の共催まで一体となって取り組んだ。地域内の社会教育施設や学校、人材を活用した取り組みについて報告する。

～ ティータイム ～

9:50~10:25

## 3. 学校を基地にしたお父さんのまちづくり 10:25~10:50

—小学校と地域がすすめる教育創造—

岸 裕司〈千葉県〉 習志野市立秋津小学校区秋津コミュニティ会長

秋津地域は若い世帯中心の町。小学校開校当初からボランティア活動が盛んであったが、平成2年度に生涯学習研究指定を受け、「学校と地域社会の交流・連携」教育に一層拍車がかかった。7年に開かれた小学校コミュニティルームは利用者の自主・自律・自己管理で運営、地域の文化センター的役割も担っている。読売教育賞最優秀賞受賞校区。

## 4. 独自の学社融合プログラム開発と体制整備を目指して 10:50~11:15

—相互理解の過程—

小屋迫厚文〈熊本県〉 蘇陽町教育委員会社会教育課社会教育係長

学校・地域社会が持つ教育機能を相互に理解し、地域独自の事業プログラムを開発しようと、学社融合推進委員会(教育長・教育委員長・社教委委員長他計6名)・研究開発委員会(社教委員・学校生涯学習担当者他計21名)が中心となって、人材バンクを設立し、地域の人材・施設等を活用できる体制整備を進めてきた。

## 5. 総括討論 11:15~11:40

■司会 浜崎 政寿〈島根県〉 島根県教育委員会生涯学習課社会教育主事  
米倉 和子〈福岡県〉 筑紫野市中央公民館社会教育指導員

# 5.16

## 1. 手作りの夢フォーラム

9:00~9:25

ー男女共同参画社会を目指してー

諸石 秀子〈佐賀県〉 伊万里市あなたとわたしの夢フォーラム実行委員会委員長  
平成10年度文部省男女共同参画社会づくりモデル市町村事業のフォーラムを実行委員会方式で実施。事務局は市総務部女性・文化対策室、実行委員は青年会議所と女性プラザおよび一般公募によるボランティアで、企画から運営まで行った。当日のビデオ放映・男女問題の寸劇・ディスカッション・講演等々、大好評であった。

## 2. 広域連携生涯学習推進システムの開発

9:25~9:50

ー筑紫地区4市1町の調査からー

古市 勝也〈福岡県〉 九州女子短期大学教授  
久原 寛〈福岡県〉 福岡教育事務所主任社会教育主事  
筑紫地区4市1町の社会教育課長が中心となり、広域連携システムの開発のために平成9年から3年間における生涯学習事業の広域連携について調査研究を行った。その結果、市町村間の事業に連携のパターンが発見された。また、広域連携システムづくりには手順があることがわかった。研究の成果と今後の課題について発表する。

～ ティータイム ～

9:50~10:25

## 3. 市立図書館の挑戦

10:25~10:50

ー生涯学習ボランティア推進の試みー

右田 志伸〈島根県〉 益田市立図書館司書  
平成5年に図書館新築移転後、絵本の読み語り活動を中心にした読書普及およびボランティア活動の推進に取り組む。のべ3カ月間のボランティア・セミナーには50名が参加、月6回のお話会には年のべ2,500人の参加者がある。公民館への出張も行っている。取り組みの意図、活動の経緯、成果と課題等を報告する。

## 4. ウイグル民族と日本の子どもの生活環境の比較研究(その2)

10:50~11:15

井上 豊久〈福岡県〉 福岡教育大学助教授  
ウイグル民族の子どもと日本の子どもの生活環境について質問紙調査、インタビュー調査を通して分析を行った。今回は、「家庭環境」:起床の仕方、家庭の楽しさ感の程度、読み聞かせ環境、家庭での役割、「学校環境」:学校の楽しさ感の程度、いじめた経験の頻度、相談できる先生の存在、「地域環境」:遊びについて、「学校の楽しさやいじめに関する総合的分析」:学校の楽しさを支えるもの、いじめ等について考察する。

## 5. 総括討論

11:15~11:40

5.16

■司会 倉本 一弘〈鳥取県〉 鳥取県教育委員会生涯学習課社会教育主事  
田中貴美子〈福岡県〉 異業種女性交流グループ「めだかの会」会長

## 1. 青少年の社会性を育む小・中・高校生のボランティア講座の試み 9:00～9:25

加藤 貴司〈熊本県〉 熊本市教育委員会社会教育課社会教育主事

ボランティア体験を通して社会性豊かな青少年を育成し、思いやりのあるまちづくりを推進しようと、平成9年度に3つの公民館で実施、10年度は14館で開催、11年度より全16館で計画している。地域活動への参加や福祉施設でのボランティア体験を通じて、学校を越えた仲間づくりができ、自分の住んでいる地域に関心を持つようになった。

## 2. 環境破壊は健康破壊 9:25～9:50

—中学生を主体とした全村的取り組みの成果と課題—

藤井 雅也〈島根県〉 弥栄村教育委員会社会教育主事・弥栄エコクラブ事務局長

平成4年度に弥栄中学校の養護教員が「環境破壊は健康破壊」と提唱以来、中学校生徒会・自治会・PTA・小学校児童会・婦人会・校長会・行政関係・教育委員会が協力して、自主的・継続的に環境について学び、環境保全活動を行っている。環境カレンダー作成、環境カルテによる診断、調査、再生紙の作成等にも取り組んでいる。

～ ティータイム ～

9:50～10:25

## 3. 荒れる中学校に取り組む 10:25～10:50

—親・教師の自助グループの実践と成果—

後田 逸馬〈鹿児島県〉 志学館大学図書課長・かごしま生涯学習を語る会事務局代表

平成9年1月、荒れる中学校の鎮静化に成功した事例を学習の課題として取り上げた。中学校の教師と親が中心となって、学校の父親セミナーや親の会、職員会議で学習を進めた。教師と親をあきらめと絶望から立ち直らせるセルフ・ヘルプの学習の中から、鎮静化の成功の理由を明らかにしていった。学習の成果と課題を発表する。

## 4. 古い町並みの活性化を図る住民主体のまちづくり 10:50～11:15

川島 啓嗣〈福岡県〉 八女市「八女・本町筋を愛する会」会長

平成4年に月一回の勉強会を10名前後で開始、翌年「八女本町筋を愛する会」を設立、婦人会、老人クラブ、中高生ボランティア等とともに町おこしのための諸事業に取り組む。花にあふれた町、祭り、町並みを生かした職人技の実演、ハゼ紅葉の名所づくり等々、行政をも巻き込んだ取り組みの経過、方法と課題について発表する。

## 5. 総括討論 11:15～11:40

■司会 大島 まな〈福岡県〉 九州女子短期大学助教授  
松村 義弥〈長崎県〉 長崎県教育委員会生涯学習課指導主事

# 5.16

## 1. 子どもと学ぶ・年長者の「折尾東尋常小学校」 9:00～9:25

半田百合枝〈福岡県〉 元北九州市立折尾公民館長・前田市民福祉センター館長  
年長者が生きがいを持ち、学習活動や世代間交流などの活動を通して地域社会に積極的に参加し、健康で楽しく生き生きと暮らせることを目指して、公民館と市民福祉センターが主催して4ヵ月間で全12回の学習プログラムを実施した。小学校の余裕教室を利用、年長者・小学生・先生のそれぞれにメリットがあるように工夫した。

## 2. 市政に女性の発想を！ 9:25～9:50

—佐賀なまちラブコール「アイもしりたかコイも話したか」—

御厨ルミ子〈佐賀県〉 佐賀商工会議所婦人会理事  
商工会議所婦人会が市政に女性の意見を取り入れてもらおうと、行政との意見交換の場を開いた。平成10年2月に第1回目を実施し、2回、3回と続いている。行政の取り組みを説明してもらい、やわらかい雰囲気の中で意見を交換している。女性に対する認識が改まった手ごたえがあり、会員も町づくりに目覚めてきた。

～ ティータイム ～

9:50～10:25

## 3. ユイマールの心で地域づくり 10:25～10:50

—地域の連携と活性化の試み—

宮里 啓子〈沖縄県〉 浦添市立中央公民館社会教育指導員  
ユイマールとは“助け合い”のこと。平成6年、婦人会創立50周年を3年後に控えて、女性の手で地域を活性化しようと活動を始める。子ども達による地域の「名人さん探し」、おばあちゃんから学ぶ「ゆし豆腐作り」、三世代で交流する「グランドゴルフ大会」など、地域を知り、愛し、誇れる人材を育成するために、地域団体の連携を図りながら、子どもから老人までを巻き込んだ活動について発表する。

## 4. 「輝くちくほうブランド」 10:50～11:15

—女性の歴史に学ぶエンパワーメント—

豊福 眸子〈福岡県〉 ちくほう女性会議広報担当  
旧産炭地のエネルギー革命以後の暗いイメージを払拭して、明るく住みよい町づくりをと筑豊25市町村の女性が集う。地位向上と男女共同参画による「輝くちくほう」を目指して、女性の登用調査や広報紙の発行、地域活動等に取り組み、一年間の総仕上げとして「遠賀川女性サミット」を実施して3年になる。文部省の女性の社会参加支援特別推進事業の委嘱も受けて推進することができた活動の一端を報告する。

## 5. 総括討論 11:15～11:40